新潟県立歴史博物館評価委員会

平成 28 年度 および 最近５ヶ年における
館の自己点検に対する
二次点検評価報告書

平成 29 年 8 月

活　動　評　価　表　（総括）

博物館の基本理念

○　県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像※を県民とともに創造していきます。
○　人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。

こうした活動を通して
『より県民に愛され、利用され、"にぎわいのある博物館"』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」
博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［評価指標］利用者数　（単位：人）

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
	実績	実績	実績	実績
①　利用者総数	**117, 425** **(前計画期間平均)** **123, 348**	115, 639	83, 915	103, 990
②　観覧者数	**(単年) 60, 788** **(前計画期間平均)** **63, 862**	56, 665	47, 791	62, 737

	平成 27 年度	**平成 28 年度**	
	実績	**目標**	**実績**
① 利用者総数	100, 718	**増加させる**	**109, 847**
② 観覧者数	45, 491		**51, 467**

○［評価指標］満足度

	平成 23 年度	平成24年度	平成 25 年度	平成 26 年度
	実績	実績	実績	実績
①来館者満足度	**97%**	98%	97%	94%
②企画展	**93%**	90%	93%	87%
③講座等 講座・講演会 体験コーナー	 **91%** **99%**	 90% 99%	 91% 90%	 89% 99%
④来館者対応	**97%**	98%	98%	100%

	平成 27 年度	**平成 28 年度**	
	実績	**目標**	**実績**
①来館者満足度	95%	**増加させる**	**96. 7%** (549／568)
②企画展	87%		**91. 0%** (4, 806／5, 282)
③講座等 講座・講演会 体験コーナー	 91% 99%		**94. 0%** (1, 435/1, 526) **98. 8%** (252/255)
④来館者対応	99%		**98. 2%** (215／219)

	平成28年度	(1)**収集保管**　収蔵資料データ整理の進展、収蔵庫の良好な保存環境の継続 (2)**展示**　［常設展］展示環境の維持、ワンポイント解説ゲスト解説の実施 ［企画展］有料展覧会 4 回実施（「おふだにねがいを-呪符」、「お菓子と新潟」、「古代オリエント美術の愉しみ」、「すてきな布」） ［その他］移動展覧会「復興祈念展」（聖籠町）、移動展覧会「お菓子と新潟」（新発田市、上越市） (3)**調査研究**　外部研究費新規４件（他に共同研究者、研究協力者としての取得３件） (4)**教育普及**　館内講座・出前講座の継続、体験活動の新プログラム５件導入（ボランティア企画を含む）、教育機関への周知活動の継続、館内ボランティア活動の活発化（体験プログラム開発に参加） (5)**連携**　社会福祉施設などとの新規連携、地域史研究ネットワーク、友の会事業の着実な充実　など (6)**情報発信**　新聞雑誌等への露出増、ホームページ及び SNS（フェイスブック、ツイッター）による情報発信 (7)**管理運営**　博物館運営方針（H24～28）に基づいた PDCA の継続
	計画期間全般 (H24～H28)	(1)**収集保管**　収蔵資料データ整理の進展、収蔵庫の良好な保存環境の継続 (2)**展示**　［常設展］展示環境の維持、ワンポイント解説ゲスト解説の実施 ［企画展］有料展覧会毎年度 4 回実施 (3)**調査研究**　外部研究費平均 4 件弱（他に共同研究者、研究協力者としての取得平均 2 件強） (4)**教育普及**　館内講座・出前講座の継続、体験活動の新プログラム平均 2 件強導入、教育機関への周知活動の継続、館内ボランティア活動の活発化（期間中、中学生ボランティアの導入、体験プログラム開発への参画など） (5)**連携**　社会福祉施設などとの新規連携、地域史研究ネットワーク、友の会事業の着実な充実　など (6)**情報発信**　新聞雑誌等への露出増、ホームページ及び SNS（フェイスブック＝26 年度から、ツイッター＝27 年度から）による情報発信 (7)**管理運営**　博物館運営方針（H24～28）に基づいた PDCA の継続
分 析		
	平成28年度	(1)利用者総数、観覧者数ともに昨年度を上回っている。もっとも、昨年度は開館以来の最低観覧者数を記録していることを前提とする。 ★観覧者数　常設展 H27：15,034 人→H28：13,908 人（1,126 人減） ※うち、有料観覧者数 9,009 人＝60% →8,230 人＝59%（779 人減、1%減） 企画展 H27：30,457 人→H28：37,559 人（7,102 人増） ※うち、有料観覧者数 14,016 人＝46% →17,831 人＝47%（3,815 人増、1%増） 夏季企画展「お菓子と新潟」が 1 万 5 千人に迫る観覧者を集め、昨年度からは挽回した。 館外活動（共催企画展の他館開催、移動展）などでの利用者増により、利用者総数は前年度を上回る。 (2)満足度の評価指標は、各項目とも昨年並みを維持している。相対的には企画展がやや低い。 (3)取組実績のうち、外部研究費（科研費）新規２件、連携活動の活発化、情報発信の拡充強化などが一定の成果として挙げられる。

計画期間全般 (H24～H28)	(1)利用者総数は10万人、観覧者数は5万人を境として上下動している。 開催した企画展の成績に左右されるという明らかな理由による。 (2)満足度の評価指標は、90%以上を維持する項目（または年度）が多いものの、相対的には企画展がやや低い。 (3)取組実績のうち、外部研究費（科研費）新規取得、連携活動の活発化、情報発信の拡充強化などが一定の成果として挙げられる。
課 題	(1) 企画展の展示方法・テーマ設定のさらなる工夫 (2) 具体的な集客に向けた広報等への新たな取組 (3) 調査研究活動の充実と県民還元の推進 (4) 支援団体・協力者との一層の連携強化

取組に対する全体的自己評価

平成28年度	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価

取組に対する全体的評価

平成28年度	[評価できる]	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留

評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・限られた予算と人員の中で、連携活動の活発化や情報発信の拡充等で数値目標を達成しようしている点を評価する。 ・博物館の重要な機能である、良好な資料保存環境の維持管理について、高く評価する。所蔵品等の早期データベース化のため、臨時職員の配置等の予算化を図り、一層の充実を期待する（今後の下記イベント等との連携も視野に入れ)。 ・経年にともなう施設設備・常設展示・機器等の劣化が見られる。各種機器や設備などの大幅な改修やリニューアルが早期に必要である。 ・長岡開府４００年、新潟県開催の「国民文化祭」、東京オリンピック・パラリンピック等のイベントと連携し、新潟県の歴史や魅力を再発見する、”にぎわいのある博物館”の実現を期待する。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	収集・保管	学芸課
取組方針	・本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を推し進める。 ・良好な資料保存環境を維持する。	
主な実現方策	・資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。 ・ＩＰＭ（総合的有害生物管理）による環境管理を継続する。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［評価指標］収蔵資料目録の刊行準備

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
1 目録	1	1	0

平成 27 年度	**平成 28 年度**	
実績	**目標**	**実績**
1	**1 目録**	**1**

○［評価指標］データベース基礎資料作成

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
継続	継続(5000 点)	継続(1722 点)	継続（900 点）

平成 27 年度	**平成 28 年度**	
実績	**目標**	**実績**
継続(1364 点)	**継続**	**継続（921 点）**

平成 28 年度

収集

(1)**資料寄贈**　138 点

(2)**収蔵資料破損**　なし

(3)**データベース化のための整理作業**　民俗資料、考古資料

(4)**収蔵品検索システムの更新**　公開に向け移行作業を継続中

保管

(1)**文化財害虫モニタリング測定**　月１回

(2)**殺・防虫消毒**　展示室殺虫消毒　１回　館内殺虫消毒　１回
館外防虫施工　２回　燻蒸室内燻蒸　３回

(3)**収蔵庫温湿度管理**　通年

(4)**空気環境管理**　酸・アルカリ濃度測定　４回（収蔵庫、企画展示室）
カビ等浮遊菌調査・イオンクロマトグラフ空気中物質測定　各１回

(5)**収蔵庫定期清掃及び資料点検**　１回

(6)**収蔵庫定期点検**　月１回

(7)**IPM 研修**　３回

(8)**保管環境研修会参加**　文化財ＩＰＭコーディネータ講習会

	計画期間全般 (H24~H28)	**収集** (1)**資料寄贈**　毎年度、相応の寄贈申し込みがあり、基準に照らして受け入れている。 (2)**収蔵資料破損**　なし (3)**収蔵資料目録刊行**　着実に作業を進めている。 (4)**データベース化のための整理作業**　毎年度の継続事業として実施 (5)**収蔵品検索システムの更新**　館内での移行を終了、公開に向け移行を継続中 **保管** (1) **文化財害虫モニタリング測定**　月１回を励行 (2) **殺・防虫消毒**　展示室殺虫消毒、館内殺虫消毒各 1 回、毎年度実施。館外防虫施工、燻蒸室内燻蒸も、その時々の状況に応じて実施している（毎年度複数回）。 (3)**収蔵庫温湿度管理**　通年実施 (4)**空気環境管理**　酸・アルカリ濃度測定（収蔵庫、企画展示室）、毎年度 4 回実施。25 年度からカビ等浮遊菌調査・イオンクロマトグラフ空気中物質測定を年１回実施 (5)**収蔵庫定期清掃及び資料点検**　毎年度実施 (6)**収蔵庫定期点検**　月１回を励行。 (7)**IPM 研修**　複数回実施し、全職員の受講を課している。 (8)**保管環境研修会参加**　文化財ＩＰＭコーディネータ講習会に参加。
分 析		
	平成 28 年度	(1)国指定重要文化財・越後文書宝翰集の目録を刊行。 (2)データベース入力は継続している。 (3)異常発生対応マニュアルに基づき「異常発生記録簿」・「定期点検簿」への記載、月１回の定期検査（目視確認）を継続。 (4)保管環境は IPM、殺・防虫消毒、温湿度管理、空気環境管理、清掃、定期点検をとおして概ね良好に維持されている。 (5)全国規模の保管環境研修への館員参加によって、職員個々の技術の維持向上をはかっている。
	計画期間全般 (H24~H28)	(1)目録は 26 年度のみ刊行できなかった。 (2)データベース入力は継続している。 (3)25 年度後期から異常発生対応マニュアルに基づき「異常発生記録簿」・「定期点検簿」への記載、月１回の定期検査（目視確認）を継続。 (4)保管環境は IPM、殺・防虫消毒、温湿度管理、空気環境管理、清掃、定期点検をとおして、概ね良好に維持されている。 (5)全国規模の保管環境研修への館員参加によって、職員個々の技術の維持向上をはかっている。
課 題		(1)データベース作成に係る整理作業員の確保が依然課題である。

取組に対する全体的自己評価

平成 28 年度	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価		
取組に対する全体的評価		
	平成 28 年度	評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
	計画期間全般 (H24～H28)	評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言		・データベース基礎資料制作は、経年的に作業が進んでいる。今後とも継続していただきたい。 ・また収集品の保管業務は博物館の根幹的な活動の一つである。数値目標等は無いが、今年度同様の水準で保管項目(1)～(8)を継続していただきたい。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	展示－常設展示	学芸課
取組方針	・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。 ・常設展示の十分な活用を推し進める。	
主な実現方策	・日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。 ・より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［評価指標］交換展示資料

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
80 点	75 点	73 点	71 点

平成 27 年度	**平成 28 年度**	
実績	**目標**	**実績**
65 点	**80 点**	**72 点**

○［評価指標］ワンポイント解説

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
477 人	425 人	423 人	499 人

平成 27 年度	**平成 28 年度**	
実績	**目標**	**実績**
541 人	**500 人**	**558 人**

平成 28 年度

(1) **定期資料展示替え**　４月（新潟県のあゆみ・雪とくらし・米づくり・縄文文化を探る）、10 月（新潟県のあゆみ・米づくり）
(2) **常設展定期点検**　隔週（照明・電気の点検、ケース内及びガラス清掃）
(3) **常設展の保守点検・補修**　２回（展示品・機器の総合点検）
(4) **常設展示ワンポイント解説ゲスト解説の実施**　27 年度より、他館の学芸員等専門家によるゲスト解説を実施。28 年度は 6 月に十日町市博物館・阿部敬学芸員、11 月に新潟県民俗学会・岩野笙子理事、3 月に柏崎市立博物館・渡邉三四一学芸員により実施。
(5) ジオラマ照明のＬＥＤ化を一部行った。

計画期間全般（H24~H28）

(1) **定期資料展示替え**　毎年 4 月、10 月に実施を励行。
そのうち、新規公開も随時（新発田市村尻遺跡・重文資料など）。
(2) **常設展定期点検**　隔週（照明・電気の点検、ケース内及びガラス清掃）を毎年度実施。
(3) **常設展の保守点検・補修**　２回（展示品・機器の総合点検）を毎年度実施。
(4) **常設展示ワンポイント解説ゲスト解説の実施**　27 年度より、他館の学芸員等によるゲスト解説を実施。27 年度、28 年度とも３回実施。
(5) 27 年度からジオラマ照明のＬＥＤ化を進めている。
(6) アンケートでの要望があった映像視聴用の椅子を設置した（27 年度）。

分 析		
	平成28年度	(1)展示資料交換を行っていることが観覧者にわかるように展示期間を明示している。 (2)常設展示ワンポイント解説は、28年度第1・3回（6・3月）には、ともに参加者数が30人を超えた。 (3)設備・機器・資料等は定期点検や保守点検で維持され、良好な見学環境を保っている。
	計画期間全般 (H24~H28)	(1)展示資料交換の展示期間明示を27年度以降実施。 (2)27年度からのゲスト解説は、毎回多くの参加者数で、通算で1回平均26人の参加者を得ており、内容についても好評を得ている。 (3)設備・機器・資料等は定期点検や保守点検で維持され、常に良好な見学環境を保っている。
課 題		(1)音声解説器・映像情報コーナー機器など、部品調達の困難な展示機器の更新を早急に行う必要があり、本件は数年内の課題が解決できず、現在に至っている。

取組に対する全体的自己評価

平成28年度	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価

取組に対する全体的評価

平成28年度	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留

評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・常設展示は、その多くの展示の性格上、展示機器及び展示品の交換が難しい中、展示品の交換を積極的に行なっている点は評価できる。 ・また、ワンポイント解説など人的工夫で、常設展示の魅力を引き出す努力も行なっている。 ・しかし、開館からの17年が経過し設備の更新も具体的に視野に入れる必要性がある。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	展示－企画展示	学芸課
取組方針	・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 ・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。	
主な実現方策	・年４回程度の企画展の実施を目標とする。 ・入場者の満足度を高める	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［評価指標］企画展回数

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
4	4	4	4

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	目標	実績
4	４回	４回

○［評価指標］満足度

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
90%	93%	93%	87%

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	目標	実績
87%	90%	91.0%

平成 28 年度

(1) **企画展**

	観覧者数(実績)	(開催日数)
春「おふだにねがいを―呪符」	9,250 人	(39 日)
夏「お菓子と新潟」	14,984 人	(47 日)
秋「古代オリエント美術の愉しみ」	8,257 人	(44 日)
冬「すてきな布」	5,068 人	(51 日)

※企画展の目的・展示内容・関連イベント・広報等の詳細は別紙。

(2) **関連講演・講座**　講演会毎回開催、解説実施

(3) **関連イベント等**

春「国際博物館の日記念　無料観覧日」の設定
「お札ストラップを作ろう」(体験コーナー)

夏「和菓子のレプリカを作ろう」(体験コーナー)

秋「自分だけのワークブックを完成させよう！」(ワークショップ)
「ヒエログリフって、どんなもの？」(ワークショップ)

冬「コースターを作ろう」(体験コーナー)

(4) **お菓子配布**　夏季企画展において、企業協賛により、毎日 300 人にお菓子を配布。

(5) **ヒエログリフの判子コーナー**　秋季企画展において、企画展示室前でヒエログリフのローマ字判子をカルトゥーシュに押すコーナーを設置

(6) **その他**　「田中長嶺展」、「マイコレクション展」、「子ども縄文研究展」を開催

	計画期間全般 (H24~H28)	(1)**企画展** 24年度　春「かぶりものと女のモノ語り」(8,010人)、夏「奇跡の新幹線」(17,146 人)、秋「古代オリエントの世界」(12,306 人)、冬「古代の越後国古志郡」(4,707人) 25年度　春「黄金の国々」(10,659人)、夏「弥生時代のにいがた」(7,060人)、秋「石仏の力」(9,172人)、冬「謎の古地図」(6,015人) 26年度　春「親鸞となむの大地」(29,113人)、夏「黄金期の浮世絵」(10,537人)、秋「日本人類学の黎明」(4,480 人)、冬「遺跡が語る新潟県の歴史」(6,005人) 27 年度　春「大正ロマン昭和モダン展」(13,064 人)、夏「北前船」6,879人)、秋「岩に刻まれた古代美術」(3,590人)、冬「海揚がり」(6,924人) 28年度　上記 (2)**関連講演・講座**　講演会毎回開催し、展示解説を実施している。 (3)**関連イベント等**　主に体験コーナーを中心に、関連の体験プログラムを実施。企画展によってはオリジナルのプログラムを開発している（「小判を作ろう」「ミニ銅鐸を作ろう」など)。 (5)**クイズラリー等**　毎年度いずれかの企画展にて随時実施している。 (6)**その他**　「マイコレクション展」、「子ども縄文研究展」は毎年開催。
分 析		
	平成28年度	(1)春季・冬季は総合研究の成果を還元する展覧会となった。 (2)講演会・関連イベントなどは、毎回好評を得た。 (3)**春季展**は、「おふだ」をキーワードに、歴史・民俗の両面から迫るもので、多角的な視点を取り入れ、現代にまでつながるものとした。県外の資料も多く展示し、ラジオパーソナリティとの対談など関心の拡大を図った。 **夏季展**は、研究員の個別研究の成果をもとに、文化庁の助成金を得て市民参加型調査成果を組み入れ、企業との連携事業、学生ボランティア受入など全館を挙げて様々な取り組みを行い、賑わいのある展覧会となった。 **秋季展**は、他館収蔵品による巡回展で、出品物の質の高さとともに、個々の展示物専用の展示具（マウント)、LED 照明の使用など作品をより良く見せる手法による展覧会であった。 **冬季展**は、国指定の重要有形民俗文化財を通じて「文化財」の多様な姿を示すとともに、実際に実験を繰り返して得られた成果を展示して自然を生かす技の魅力の発信、身近に存在する道具や技術への気付きを促す面で成果があったと考える。 (4)展覧会を通じた県内外の企業・諸団体との連携を図った。
	計画期間全般 (H24~H28)	(1) 毎年度４回実施を達成。ただし、企画内容、時期により、観覧者数に相違がある。 (2)講演会・関連イベントなどは、毎回好評を得ている。 (3)展覧会は、随時県内外の諸団体との連携を図りつつ開催している。 (4)研究員の研究成果を還元した展示を毎年度開催している。
課 題		(1)展示を見せる工夫に時間を割くことが難しい。 (2)集客面から広報・交流普及担当と、より質の高い連携が必要である。

取組に対する全体的自己評価						
	平成 28 年度	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
	計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価						
取組に対する全体的評価						
	平成 28 年度	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
	計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・評価指数の企画展の４回実施と、その満足度を上げることの二つを物差しとしての館側の自己評価には納得がいく。計画期間全般の分析にも大きな疑問を抱く点はなかった。 ・新潟県の歴史博物館という性格から、「新潟の歴史」を学ぶという個性は打ち出されてしかるべきである。そういった中、28 年度の「お菓子と新潟」は、身近な生活の中にテーマを求め、来館者数も来場者の満足度も高かった。また、来館者数の増加に直結しなかったものの、「すてきな布」のような、失われつつある文化の記憶を丁寧に掘り起こしたような企画も、意義あるものである。新潟に焦点を当てた企画に今後も期待したい。 ・研究成果の発表や還元の場としての館独自の企画展と、一般的により訴求力が見込まれる外部企画とを織り交ぜて、毎年 4 本の企画展が開催されており、企画展に求められる諸側面によく対応していると思われる。 ・どの企画展でも、ワークショップなどの関連イベントを実施しており、展示内容を多面的に伝えようという努力がうかがえる。他方、展示資料の見せ方にはまだまだ工夫がほしい。資料の魅力を伝えることは、単なるうわべの問題ではなく、研究の意義を伝える手段でもある。					

展覧会名	おふだに願いを―呪符―	期　間	平成28年4月23日(土)～6月5日(日)(39日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館、新潟日報社、ＮＳＴ 後援：新潟県教育委員会、新潟市、長岡市、三条市、新発田市、加茂市、燕市、阿賀野市、胎内市、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7、新潟史学会、新潟県考古学会、新潟県民俗学会		
開催目的	古代以来、人びとは何か願い事があると「おふだ（お札）＝呪符」を作ってそれにすがってきた。このような呪符への信仰は現代に至るまで連綿と続いている。しかし、今ではそのルーツが忘れ去られている向きもある。近年、オカルトに限らず、科学では解明できない不可思議なことに対する興味が人びとの間でも大きくなっているが、これは時代の不安に対するアンチテーゼかもしれない。このような時代だからこそ、心の問題である祈りや呪い（まじない）、そしてそれを形にした呪符というものを、歴史学・考古学・民俗学など様々な視点から今一度考え直してみる機会とする。		
特記事項	平成25～27年度の総合研究「越後における呪符の総合的研究」の成果を活用した企画展。		

	実　　績	予算上の見込値	達成率
観覧者数	9,250人 （うち有料4,285人）	15,544人 （うち有料6,048人）	59.5% (70.8%)

展示構成・内容	プロローグ　おふだへのおさそい 第１章　災いを避ける 第２章　古代中世のおふだ 第３章　祓う・清める 第４章　まじないの秘書 第５章　願をかける・誓う エピローグ　大衆化したおふだ	(付記事項) 会期途中から、一部写真撮影可とし、SNSでの発信を促す。さらに、正面入口風除室内面側自動ドア全面を活用した告知バナー貼付や、エントランスガラス面などにバナー設置を行い、企画展実施中である旨の表出を試行（その後の企画展でも随時実施）。
展示品・借用	約200点 県外（上田～西尾～長岡京～京都）＋県内（胎内、新潟市、県埋文）美専車にて。	
パネル・図録等製作	パネルは自作。 図録製作（111頁）。	

関連イベント	講座・講演会		・おふだトーク「モーゲーおふだの未知なるパワー～恋愛だけには効きません～」5月8日（日）　参加者：155人 ｹﾞｽﾄ：遠藤麻理さん（FM PORT ﾓｰﾆﾝｸﾞｹﾞｰﾄﾅﾋﾞｹﾞｰﾀｰ）　聞き手：浅井勝利（当館研究員） ・講演会「まじないと文字が出会うとき」5月22日（日）　参加者：146人 講師：小池淳一氏（国立歴史民俗博物館教授） ・ミニシンポジウム「境界のまじない」5月14日（土）　参加者：104人 講師：髙野晶文氏（三条市生涯学習課）板橋春夫（当館参事）　ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：三国信一（当館研究員） ・関連講座１「おふだと呪物崇拝」5月7日（土）　参加者：64人　講師：三国信一（当館研究員） ・関連講座２「呪いの古代史」5月21日（土）　参加者：125人　講師：浅井勝利（当館研究員） ・関連講座３「おふだと人形」5月28日（土）　参加者：74人　講師：大楽和正（当館研究員）
	展示解説		会期中土日のうち、イベント等のない日に実施
	体験イベント		・体験コーナー「おふだストラップを作ろう」　18回　1,044人
広報	有料広告	主催広告	新潟日報　広告23回　（半5段14回、半3段9回）
		広告	毎日新聞（本紙・朝刊）富山県・石川県版　半5段（1/6ページ）3月28日、4月13日掲載
	無料広告	取材報道	【新聞】　3件（新潟日報2回、長岡新聞1回） 【テレビ・ラジオ】　3件（NST 2回、FMながおか1回）
		企画報道	【市町村広報誌等】市町村広報誌2回（上越、阿賀野）、県民だより春号 【テレビ・ラジオ】ほっとホット新潟（UX）1回、FM PORT1回、エフエムしばた1回、ＦＭながおか2回 【地域振興局広報枠】県からのお知らせ(NST,TeNY)2回
		パブリシティ	【新聞紹介】25件（新潟日報18回、読売新聞、長岡新聞、柏崎日報、妻有新聞ほか各1回） 【雑誌】新潟情報4/20号、キャレル5月号、6月号、カルチャーにいがた2月号、にいがた文化創刊号、ＴＶウィークリー4/23号、ＣＵＴＩNcampus 【テレビ・ラジオ】NST、UX、ＮＨＫラジオ、ＦＭ PORT、FMながおか、FM群馬 、エフエムしばた 【インターネットサイト等】県庁HP、にいがた観光ナビ、Yahooニュースなど10件以上
		プレパブ	17件（Doos3・4月号、ナジラビ長岡・見附版4月号、ナジラビ県央版3/20号、新潟県観光協会、ぽるたーた3月号、ジャックランド4月号、Komachi3/25号、シーズン4,5月号、新潟WEEK!4/1号ほか
	その他（ポスター等）		【ポスター・チラシ】ウオロクほか量販店、蔦屋ほか大型書店、大光銀行ほか金融機関、商店街等経済団体、近県旅行業協会など後半に配付

経費	・県費からの支出決算　5,101千円　　・収入決算　2,621千円

総括	従来、当館ではあまり見かけない客層の来館があったようである（サブカル系？）。ユニークなテーマ設定であるという感想を多くの方から頂いた。歴史資料、考古資料、民俗資料から構成し、異なる分野の研究員が主体的にかかわることは困難も多いが、多角的な視点で一つのテーマを取り上げることは有意義であると考える。

展覧会名	お菓子と新潟	期　間	平成28年7月15日(金)～9月4日(日)(47日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館、新潟日報社、ＮＳＴ 共催：新潟県菓子工業組合、新潟県米菓工業協同組合、新潟県和菓子協会 後援：新潟県教育委員会、新潟市、上越市、柏崎市、新発田市、村上市、佐渡市、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FMながおか80.7、新潟史学会、新潟県考古学会、新潟県民俗学会 共催：岩塚製菓、越後製菓、尾西食品、亀田製菓、栗山米菓、三幸製菓、ブルボン、新野屋		
開催目的	お菓子の起源は、木の実や果物と考えられており、現在の和菓子の多くは江戸時代に登場した。また、お菓子は四季折々の行事の場でも用いられ、人々の生活に密着してきた。現代のお菓子事情は多様化しているが、新潟県では米菓製造業が重要な産業となっている。本展では、このような生活に身近なお菓子の歴史を、新潟県の歴史を交えて紹介する。		
特記事項	「平成28年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択され、移動展覧会や各種事業を様々展開した。また市民参加型調査を導入し、展示に活用した。		

	実　　績	予算上の見込値	達成率
観覧者数	14,948人 （うち有料7,714人）	10,622人 （うち有料4,717人）	140.7% (163.5%)

展示構成・内容	プロローグ～お菓子の起源～ 1　海外からの影響　　2　あめ～砂糖普及以前の甘味～ 3　江戸時代のお菓子　　4　くらしのなかのお菓子 5　現代お菓子事情 エピローグ～お菓子が語る新潟の歴史～	(付記事項) 準備段階で市民参加型調査を導入（とび出せ！お菓子調査隊）。さまざまな形で市民との協働を模索した。また、米菓企業など、企業との密な連携が行われ、それが功を奏して多くの来場者を得るとともに、満足度向上に貢献した。そして、それぞれの会場規模に合わせて移動展覧会を実施し、より多くの方に新潟県のお菓子の歴史とその魅力を発信した。
展示品・借用	県内のお菓子関係資料（古文書、看板、菓子木型、食玩など約200点） 借用は新潟・弥彦・佐渡・上越に美専車。他は公用車にて研究員担当。	
パネル・図録等製作	パネル外部発注68枚。一部自作。 無償配付パンフレット（32頁）助成金にて製作。	

関連イベント	講座・講演会		・講演会「和菓子の魅力」8月21日（日）　参加者：167人　講師：中山圭子氏（虎屋文庫） ・講座「お菓子と新潟～江戸時代を中心に～」7月23日（土）　参加者：83人　講師：渡部浩二（当館研究員）
	展示解説		8月9日（火）、10日（水）、11日（木・祝※2回）、27日（土※2回）、9月3日（土）の7回実施。うち4回は、お菓子調査隊員が自分の調査したお菓子について解説。
	体験イベント		・ワークショップ「土器片形クッキー『ドッキー』作り」8月7日（日）　参加者：32人 講師：お菓子作り考古学者ヤミラ ・ワークショップ「工芸菓子作りに挑戦！」8月27日（土）、8月28日（日） ・体験コーナー「和菓子のレプリカを作ろう」　16回　1,240人
	その他		・お菓子無料配布（会期中毎日、先着300個） ・7月16日（土）：餅つき（越後製菓）　・7月23日（土）、24日（日）：ふわっと実演試食（岩塚製菓） ・7月30日（土）：ホワミルがお菓子をプレゼント（三幸製菓）・7月30日（土）、31日（日）：菓子配布（新野屋） ・8月6日（土）、7日（日）：ハッピーターン号（亀田製菓）・8月27日（土）、28日（日）：非常食の配布（尾西食品）
	移動展覧会		・新発田会場　会場：イクネス新発田、9月16日（金）～10月2日（日）、入場者：図書館のため集計不能 ・上越会場　会場：ミュゼ雪小町、11月2日（火）～11月14日（月）、入場者：1,149人
広報	有料広告	主催広告	新潟日報　広告16回　（半5段13回、半3段3回）　NST　CM　30回以上
		広告	FMながおか　週末イベントインフォメーション、FM PORT 夏休みお出かけキャンペーン（ＨＰ付） キャレル8月号、新潟Komachi8月・9月号で特集企画
	無料広告	取材報道	【新聞】11件（新潟日報5回、読売新聞2回、長岡新聞3回、長岡よみうり1回） 【テレビ・ラジオ】　4件（NST2回、NHK1回、FMながおか1回） 【雑誌】月刊製菓製パン11月号
		企画報道	【市町村広報誌等】県民だより夏号、市町村広報誌1回（上越市）、首都圏向けラジオ広報（広報広聴課枠） 【新聞・雑誌等】新潟日報、リバーバンクリポート15号　　【ラジオ】ＦＭながおか3回 【地域振興局広報枠】ＦＭピッカラ2回（柏崎地域振興局枠）、上越タイムス（上越地域振興局枠）
		パブリシティ	【新聞紹介】36件（新潟日報16回、読売新聞3回、朝日新聞1回、長岡新聞6回、越後ジャーナル1回、妻有新聞1回、nassh2回、長岡よみうり4回　ほか） 【雑誌等】カルチャーにいがた、ホットペッパー長岡版6/24号、庄内小僧7月号、まるごと生活情報、デリジェイ7月号（上毛新聞折込FP）、キャレル8月号、9月号、Komachi10月号　ほか 【ラジオ】ＦＭながおか 【インターネットサイト等】県庁HP、にいがた観光ナビ、新潟文化物語　ほか
		プレパブ	17件（TJとやま7月号、Tact7月号、パルジェ、燕人、月刊キャレル7月号、月刊ヴィアン6月号、週刊クイック、新潟WEEK!7/1号、妻有新聞、長岡新聞、FMながおか、エフエム群馬　ほか）
	その他（ポスター等）		【ポスター・チラシ】県内ビジネスホテル及び温泉街に配付を行い、好評を得た。溝口政子氏の紹介で、首都圏の歌詞専門学校、成果組合にも配付。県内の成果専門学校全学生にチラシ配布。

経費	・県費からの支出決算　2,520千円　・収入決算　4,341千円　・助成金　8,076千円

総括	地域や生活に密着したテーマであったため、女性客を中心に新たな客層を開拓できた。市民参加型調査の試みも意義あるものとなった。そして企業、組合、菓子店、大学、専門学校、高校などさまざまな団体と連携できた。特に新潟県菓子工業組合の関係者からは、今回の連携に対して好意的な反応があり、調査、研究、展示をはじめとした機能の一端を示せた。

展覧会名	古代オリエント美術の愉しみ	期　間	平成28年9月17日(土)～11月6日(日)(44日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館、MIHO MUSEUM、新潟日報社、ＮＳＴ 後援：新潟県教育委員会、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FMながおか80.7、新潟史学会、新潟県考古学会、新潟県民俗学会 協力：古代オリエント博物館		
開催目的	2017年に開館20周年を迎えるMIHO MUSEUMの所蔵品から厳選した65点により、その時代地域で何世代にもわたり受け継がれ、異文化間の交流とも相まって洗練されてきた、古代オリエントの世界を紹介する。また、MIHO MUSEUM、古代オリエント博物館との三館で実行委員会を組織し、平成28年度地域の核となる美術館・博物館支援事業の助成を受けて体験コーナー等を実施し、これと連携させて、オリエント文化を身近に感じさせる。		
特記事項	平成24年度秋季企画展として開催した「古代オリエントの世界」は人気の展覧会であった。本展はその第2弾の意味もあり、利用者のニーズにも応えるべく開催したものである。		

	実　績	予算上の見込値	達成率
観覧者数	8,257人 （うち有料4,244人）	16,720人 （うち有料7,425人）	49.4% (57.2%)

展示構成・内容	1 私はどこから来てどこへ行くのか 2 天と地を結ぶ 3 自然の円環をこえるもの 4 オリエント世界の統一 5 楽園の東漸 6 シルクロードの黎明 7 ペルシアの復活 8 ペルシア文化の東漸 9 不滅なる想い	(付記事項) MIHO MUSEUMの学芸員により、マウント展示が行われ、これまでにない展示手法を取り入れることができた。
展示品・借用	MIHO MUSEUM所蔵資料 65点。 古代オリエント博物館より運搬、MIHO MUSEUMへ搬送（美専車）。	
パネル・図録等製作	MIHO MUSEUMがパネル作成を担当。 さらに、会期中わかりやすい解説が必要との指摘を受け、各章の内容を紹介したパネルを自作。また展示解説文を拡大した手持ち用資料を製作。 図録はMIHO MUSEUM製作。	

関連イベント	講演会		・講演会「古代美術の愉しみ」9月18日（日）　参加者：74人　講師：稲垣肇氏（MIHO MUSEUM学芸員）
	体験イベント		・企画展関連ワークショップ「自分だけのワークブックを完成させよう！」10月23日（日）AM　参加者：4人 講師：津村眞輝子氏（古代オリエント博物館研究員） ・企画展関連ワークショップ「ヒエログリフって、どんなもの？」10月23日（日）PM　参加者：24人 講師：講師：田澤恵子氏（古代オリエント博物館研究員） ・体験コーナー「まが玉を作ろう」　15回　632人
	その他		・企画展示室前にスタンプコーナー設置（ヒエログリフで自分の名前をスタンプ）。 ・小・中学生にワークブックを無料配付（土日祝日のみ）
広報	有料広告	主催広告	新潟日報　広告14回　（半5段6回、半3段8回） NST　CM　30回以上
		広告	北日本新聞（富山県）広告半3段（54,000円）
	無料広告	取材報道	【新聞】　2件（新潟日報1回、長岡新聞1回） 【テレビ・ラジオ】　4件（NST2回、FMながおか2回）
		企画報道	【市町村広報誌等】市町村広報誌1回（上越）、いいねっか新潟Facebook（広報広聴課枠） 【新聞・雑誌等】新潟日報 【テレビ・ラジオ】BSNラジオ、ＦＭながおか、FMピッカラ
		パブリシティ	【新聞紹介】19件（新潟日報10回、朝日新聞1回、長岡新聞1回、三条新聞1回、nassh1回　ほか） 【雑誌等】キャレル10月号、ホットペッパー長岡版9/30号、月刊にいがた9月号、10月号ほか 【テレビ・ラジオ】ＮＳＴ、BSNラジオ、ＦＭピッカラ、FMながおか、FM群馬 【インターネットサイト等】県庁HP、にいがた観光ナビほか
		プレパブ	19件（Doos9・10月号、ナジラビ長岡見附版8月号、ナジラビ県央版7/20号、ジャックランド9月号、月刊キャレル9月号、Tact9月号、シーズン9,10月号、月刊キャレル9月号、アミーゴ8/5号、十日町新聞、長岡新聞社、エフエム群馬、ＦＭながおか、エフエム群馬　ほか）
	その他 （ポスター等）		【ポスター・チラシ】県内文化施設等各所に配付する従前どおりのもののほか、小学生向けにチラシを作成し、長岡、柏崎、見附、小千谷の小学校に配付、

経費	・県費からの支出決算　7,286千円　　・収入決算　3,182千円

総括	古代オリエント博物館・MIHO MUSEUMとの連携がなされ、文化庁助成事業によるオリエント文化の紹介が展開できた。その後さらに古代オリエント博物館の文化庁助成事業に協力館として関わっており、こうした連携は継続的に行うことで効果を発揮すると思われる。

展覧会名	すてきな布―アンギン研究 100 年―	期　間	平成 29 年 1 月 21 日(土)～3 月 20 日(月・祝) (51 日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館、十日町市博物館、津南町教育委員会、新潟日報社、ＮＳＴ 後援：新潟県教育委員会、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、柏崎日報社、妻有新聞社、十日町新聞社、十日町タイムス社、東頸新聞社、長岡新聞社、BSN 新潟放送、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、株式会社エヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FM ピッカラ、エフエムとおかまち、FM ながおか 80.7、新潟史学会、新潟県考古学会、新潟県民俗学会		
開催目的	これまでの調査研究で明らかになったアンギン研究の歩みを紹介する一方、暮らしのなかで生み出されてきた自家用で自家製の布としてアンギンを再評価して紹介することを目的とした。また、アンギンづくりのなかでこれまで記録しか残らないアカソという素材の利用の復元をめざした成果の一部を紹介する展覧会でもある。		
特記事項	平成 27～29 年度の総合研究「アンギンの復元的研究」の成果の一部と連動して策定した企画展。		

観覧者数	実　　績	予算上の見込値	達成率
	5,068 人 （うち有料 1,973 人）	8,466 人 （うち有料 3,760 人）	59.9% (52.5%)

展示構成・内容	第１章　アンギン研究の始まり ・アンギン実物発見から文化財指定まで　　・新潟県民俗学会の成果 第２章　アンギン発見以後　多様なアンギン実物 ・仕事着としてのアンギン　　・いろいろな袋　　・繊維・糸類 ・アンギンづくりの道具 第３章　実物資料の謎から始まった新たな研究 ・保温性の高い柔らかいアンギンづくりを目指して　・暮らしのなかのアンギン	(付記事項) 小林存の出身地である新潟市横越地区住民に対し、公民館を通じて見学会を開催。県有バスを活用して実施した（参加者 23 人）。
展示品・借用	延べ 172 点。国指定有形民俗文化財 32 点。 指定品借用のため美専車を配車。	
パネル・図録等製作	パネルは自作。 図録製作（74 頁）。	

関連イベント	講座・講演会		・講演会「アンギンと日本のタテ捩り（もじり）織物」3 月 5 日（日）　参加者 97 人 講師：吉本 忍 氏（国立民族学博物館 名誉教授） ・特別対談「アンギンの発見者ー小林存（ながろう）を語るー」2 月 19 日（日）　参加者 65 人 講師：駒形貶氏（日本民俗学会・新潟県民俗学会 名誉会員）、陳玲（当館研究員） ・講座「布を読み解こう～糸づくりに注目して～」1 月 21 日（土）　参加者 33 人　講師：陳　玲（当館研究員） ・講座「縄をつくる～布をつくるために～」1 月 28 日（土）　参加者 27 人　講師：宮尾 亨（当館研究員）
	展示解説		会期中土日、随時開催。その他、団体対応のため数回実施。
	体験イベント		・体験コーナー「コースターを作ろう」　15 回 347 人（子ども向け、大人向けの２メニューを準備）
	その他		・「廣田幸子さんによるアンギンづくり実演」2 月 26 日（日）、3 月 11 日（土） ・「岩田重信さんによるアンギンづくり実演」3 月 19 日（日） ・県内図書館での共催展示（県立図書館、新潟市中央図書館、新潟市立亀田図書館、長岡市立中央図書館、十日町情報館、阿賀野市立図書館　6 館）
広報	有料広告	主催広告	新潟日報　広告 5 回　（半 5 段）　NST　CM　30 回以上
		広告	なし
	無料広告	取材報道	【新聞】 6 件（新潟日報 1 回、長岡新聞 1 回、妻有新聞 1 回、信濃毎日新聞 1 回、長岡よみうり 2 回） 【テレビ・ラジオ】　3 件（NST　1 回、NHK テレビ 1 回、FM ながおか 1 回）
		企画報道	【市町村広報誌等】市町村広報誌 5 回（上越市、胎内市、十日町市、新潟市江南区、津南町）、県民だより冬号 【新聞・雑誌等】新潟日報、上越タイムス 【テレビ・ラジオ】ＢＳＮテレビ、文化放送「いいねっか新潟」、ＦＭピッカラ、ＦＭながおか 【地域振興局広報枠】ＦＭピッカラ（柏崎地域振興局枠）
		パブリシティ	【新聞紹介】29 件（新潟日報 12 回、毎日新聞 1 回、十日町新聞 2 回、妻有新聞 2 回　ほか） 【雑誌等】キャレル 3 月号、新潟 Komachi1/25 号　・庄内小僧 2 月号　・シーズン 2・3 月号　ほか 【テレビ・ラジオ】ＮＳＴ、ＮＨＫテレビ、ラジオ、BSN テレビ、FM ながおか　ほか 【インターネットサイト等】県庁 HP、にいがた観光ナビ　ほか
		プレパブ	19 件（月刊ヴィアン 12 月号、ぽるたーた 12/1 号、ナジラビ県央版 11/20 号、デリジェイ 1 月号、ジャックランド 1 月号、月刊にいがた 1 月号、妻有新聞、十日町新聞、ＦＭながおか　ほか）
	その他 （ポスター等）		【ポスター・チラシ】カルチャースクール、大学・専門学校や県内手芸店（30 店舗）等に対し、重点的な配布を行った。

経費	・県費からの支出決算　2,750 千円　　・収入決算　1,134 千円

総括	調査研究の成果が、地域文化の理解を一層深めることに還元された。また、市町村の民俗資料への再評価とつなげられ、県博としてのリーダーシップ的な役目が果たされた。また、市町村資料館・博物館の民俗資料の活用が、文化財保護の現場に刺激を与えた事例も得られ、今後、それらの活用も念頭に入れた取り組みを検討する必要がある。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	調査・研究	学芸課・経営企画課
取組方針	・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 ・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。	
主な実現方策	・総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。 ・講座参加者の満足度を高める。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［評価指標］外部研究費取得件数

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
5	4(+2)	4(+1)	3(+4)

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	目標	実績
4(+3)	6 件	4(+3)件

○［評価指標］学会発表等件数

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
10 回	5	9	7

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	目標	実績
7	16 回	13 回

○［評価指標］論文等執筆件数

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
58 回	51	50	44

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	目標	実績
51	80 回	52 回

平成 28 年度

(1) **外部研究費**（科学研究費ほか）　新規 2（科研費）

・渡部浩二（研究代表者）「佐渡金銀山技術書と佐渡金銀山絵巻の複合的研究」科学研究費基盤C

・前嶋敏（研究代表者）「中近世における武家文書群の伝来」科学研究費基盤C

・［評価指標：外部研究費取得件数］の括弧内は、共同研究者、研究協力者としての外部研究費取得件数

(2) **学会発表等**　日本民俗学会、地方史研究協議会上越妙高大会ほか

・宮尾亨「The Olympic story of prehistoric Japanese Jomon Flame pottery」世界考古学会議第 8 回京都大会

・陳玲「アンギンの分布について」新潟県民俗学会

	(3) **論文等執筆** ・山本哲也「博物館における民具を考える」『博物館研究』51-8 ・三国信一「盆におけるヌルデの利用について」『高志路』400 (4)**館内総合研究の還元** ・「越後佐渡における呪符の総合的研究」（研究代表者・浅井勝利） →平成 28 年度春季企画展「おふだにねがいを―呪符―」 ・「アンギンの復元的研究」（研究代表者・陳玲） →平成 28 年度冬季企画展「すてきな布―アンギン研究 100 年―」
計画期間全般 (H24~H28)	(1)**外部研究費**（科学研究費ほか）　年に３～４件の科研費取得。共同研究者、研究協力者としての外部研究費取得も１～４件と、毎年取得している。 (2)**学会発表等**　１年に平均約８件で、最終目標の半分に留まる。 (3)**論文等執筆**　毎年 50 件前後で、目標値に届かず。 (4)**館内総合研究の還元** 企画展「石仏の力」（25 年度）、「北前船」（27 年度）、「おふだにねがいを」「すてきな布」（28 年度）は、総合研究の成果による。
分 析	
平成 28 年度	(1)外部研究費は新規に２件を獲得した。 (2)学会発表等は例年なみであり、目標値の設定を変更する必要がある。
計画期間全般 (H24~H28)	(1)外部研究費取得は、数において安定している。 (2)学会発表等は、目標値を高く設定していることもあり、達成が困難な状態が続いている。
課 題	(1) 日常業務の中で研究に当てることが出来る割合に差が生じるため、中期的な見通しを持った業務配分が必要である

取組に対する全体的自己評価

平成 28 年度	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価

取組に対する全体的評価

平成 28 年度	[評価できる]	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	[評価できる]	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留

評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・科学研究費補助金の獲得や国際会議での発表などが裏付けるように、学術的に意義深い高度な研究がなされているといえよう。同時に、新潟県における中核的な博物館としての役割に合致した研究も充実している。 ・論文や口頭発表の数値目標も大切であるが、今後の目標設定においては、査読誌やそれに準ずるハイレベルな場所での発表といった、質の担保をより考慮されたい。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	教育・普及 ／ 学校教育	経営企画課
取組方針	・学校教育に一層活用される博物館を目指す。 ・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 ・館内及び館外活動の充実を図る。	
主な実現方策	・教育機関への施設利用の周知 ・体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［評価指標］県内小学校の来館率

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
32%	29%	32%	29%

平成 27 年度	**平成 28 年度**	
実績	**目標**	**実績**
29%	**35%**	**31.0%**

○［評価指標］体験活動の新プログラム導入件数

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
3	1	3	1

平成 27 年度	**平成 28 年度**	
実績	**目標**	**実績**
2	**1 件以上**	**5**

○［評価指標］体験コーナーの参加者満足度

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
99%	98%	90%	99%

平成 27 年度	**平成 28 年度**	
実績	**目標**	**実績**
99%	**90%以上**	**98.8%**

平成 28 年度

(1) **県内小学校来館校数**　149 校(延べ数)

(2) **体験活動の新規プログラム**　5 件の新規オリジナルプログラム「おふだストラップを作ろう」「和菓子のレプリカを作ろう」「組みひもミサンガを作ろう」「三角すい万華鏡を作ろう」「魔鏡を作ろう」

(3) **出前授業の実施**　19 回 779 人（まが玉づくり、火おこし体験など)。
今年度から、「北前船」をテーマとした出前授業を開始した（4 回 122 人)。

(4) **教育機関への施設利用の周知活動**

・県教育委員会の教育施策説明会…上中下越佐渡の小中・特別支援学校校長
・新潟市の園長・学校長研修会……保育・幼稚園から高校の園長・校長
・県及び新潟市のＰＴＡ連合会研究大会…ＰＴＡ役員等
・各地区教員研修会…校長・教頭・研究主任・社会科主任等
・学校訪問の重点化…常設展・企画展に関する広報活動

計画期間全般 (H24~H28)	(1)**県内小学校来館校数**　130 校～160 校台と、数の上ではばらつきがある。 (2)**体験活動の新規プログラム**　「古代のうつわ、木の札を体験」「小判を作ろう」「ミニ銅鐸を作ろう」「ミニ石仏を作ろう」「江戸時代で遊ぼう」「髪飾りを作ろう！」「ミニ船絵馬を作ろう！」「おふだストラップを作ろう」「和菓子のレプリカを作ろう」「組みひもミサンガを作ろう」「三角すい万華鏡を作ろう」「魔鏡を作ろう」計 12 プログラム (3)**出前授業の実施**　24 年度・8 回、25 年度・17 回、26 年度・26 回、27 年度・16 回、28 年度・19 回と、実施回数にばらつきがあるが、新規の内容を考案するなど、その内容の充実に努めている。 (4)**教育機関への施設利用の周知活動**　毎年度各種団体等への周知活動を実施している。
分 析	
平成 28 年度	(1)小学校来館数は、減少傾向にあるが、学年別に繰り返し利用する学校も多く、利用の比率は安定している。 (2)体験コーナー参加者の満足度は高い水準を維持している。 (3)教職員には、展示や解説、体験活動について高い評価を得ている。
計画期間全般 (H24~H28)	(1)小学校来館数は、減少傾向にあるが、学校数そのものの減少の影響が考えられ、利用の比率としては安定していると見られる。 (2)体験コーナー参加者の満足度は、常に 90%以上の高い水準を維持している。 (3)教職員には、展示や解説、体験活動について高い評価を得ているので、来館経験の無い教職員に対する働きかけを強化する必要がある。
課 題	(1)幅広い教員層に対する広報活動の重点化、教員研修の実施 (2)体験活動の新プログラム開発・内容の充実と新規性の PR (3)事前事後学習に役立つ教材や学習機会の準備

取組に対する全体的自己評価

平成 28 年度	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価

取組に対する全体的評価

平成 28 年度	[評価できる]	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	[評価できる]	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留

評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・県内小学校の来館比率は、約３０％で安定しており、中学校等の来館校数は、上昇傾向にあり、新体験プログラム導入や参加満足度から、評価できる。学校教育に活用される博物館になっている。 ・教育機関への施設利用の広報活動を引き続き実施するとともに、来館経験のない教職員に対する働きかけを一層強化する必要がある。

新潟県立歴史博物館　県内小学校来館数の推移

年度	来館校数	県内小学校数	比率
21	157	552	28.4
22	161	534	30.1
23	171	531	32.2
24	151	525	28.8
25	164	510	32.1
26	142	485	29.3
27	138	484	28.5
28	149	481	31.0

新潟県立歴史博物館　中学校～大学及び特別支援学校の来館数の推移

年度	来館校数	来館者数
21	47	2,268
22	49	1,833
23	47	2,612
24	52	2,116
25	66	2,370
26	52	1,563
27	70	3,116
28	60	1,727

活　動　評　価　表

機能・取組分野	教育・普及 ／ 社会教育	経営企画課
取組方針	・県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 ・館内・館外での活動の充実を図る。	
主な実現方策	・社会教育機関との連携に努める。 ・館内講座・出前講座を継続する。 ・ボランティアの受入の推進。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○　出前講座の参加者満足度

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
96%	94%	92%	94%

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	**目標**	**実績**
89%	**90%**	**92.0%**

○　館員の講座・講演会の参加者満足度

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
90%	90%	91%	89%

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	**目標**	**実績**
91%	**91%**	**94.0%**

○　ボランティアの活動延人数（中学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・大学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ除く。）

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
182 人	104 人	88 人	368 人

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	**目標**	**実績**
625 人	**600 人**	**538 人**

平成 28 年度

(1) **出前講座**　県内 11 市町村から要請 18 回実施、参加者 529 名
(2) **館内講座**　48 講座・講演会を実施、参加者 3,044 名
(3) **ボランティア登録者**　17 名（中学生ボランティア 8 名）
(4) **ボランティア活動**
- 資料整理、講座の受付、広報活動、体験コーナーや学校団体の体験活動の補助、さらに新規に体験プログラムの開発・運営への参画
- 常設展示室「縄文人の世界」案内解説（中学生ボランティア）

(5) **ボランティア増加の取組**
- 中学生ボランティアの継続実施
- 来館者に対する広報活動の重点化
- 大学生ボランティアの臨時募集（夏季企画展時）

	計画期間全般 (H24~H28)	(1)**出前講座**　24 年度 17 回（743 人）、25 年度 15 回（421 人）、26 年度 15 回（404 人）、27 年度 18 回（648 人）、28 年度 18 回（529 人） (2)**館内講座**　24 年度 38 回（2,412 人）、25 年度 38 回（1,654 人）、26 年度 40 回（1,746 人）、27 年度 49 回（2,099 人）、28 年度 48 回（3,044 人） (3)**ボランティア登録者**　24 年度 8 名、25 年度 7 名、26 年度 18 名、27 年度 22 名、28 年度 17 名と、当初よりは増えているが、必ずしも増加傾向とは言えない。 (4)**ボランティア活動** ・資料整理、講座の受付、体験コーナーや学校団体の体験活動の補助等 ・28 年度には体験プログラムの開発・運営に参画 ・常設展示室「縄文人の世界」案内解説（中学生ボランティア） (5)**ボランティア増加の取組** ・中学生ボランティアの導入・継続実施 ・来館者に対する広報活動の重点化
分 析		
	平成 28 年度	(1)出前講座は市町村の要請に基づいて計画、実施している。回数は期間中ほぼ同等である。 (2)館内講座は、昨年度同様、定期的に行っている定番の講座に継続して参加している常連の聴講者が目立った。さらに、企画展と連動した記念講演会と講座も好評を博し、新規に聴講する初参加の方が増えた。 (3)ボランティア登録者は昨年とほぼ変わらず推移し、各活動へ熱心に参加していただいている。体験プログラムの開発・運営にも関わっていただき、自立した活動へのステップになるものと思われる。 (4) ７～８月に、８名の中学生ボランティアによる常設展示の案内解説を実施した（３年度目）。学校及び地域との連携により、若年層の社会参加、館の事業として公共の場における情報発信を継続的に進めている。 (5)平成 28 年度から新たな取組として、大学生ボランティアを募集し、６名の大学生に夏季企画展会期中の土日を中心に、協賛企業のプレゼント配布等について協力を得た。
	計画期間全般 (H24~H28)	(1)出前講座は市町村の要請に基づいて計画、実施している。もちろん、市町村及び公民館等の担当者との連絡を密にし、より多くの県民の利用につながるように取り組んでいる。なお、回数は毎年度ほぼ同等であるが、満足度向上・高品質維持を第一義と考えており、回数増を目標とはしていない。（(2) の館内講座も同様） (2)館内講座は、定期的に行っている定番の講座に継続して参加している常連の聴講者が目立つ。一方、企画展と連動した記念講演会や講座も好評を博し、新規聴講者もその都度獲得している。 (3)ボランティア登録者は 26 年度以降大幅に増加し、各活動へ熱心に参加していただいている。体験コーナーの企画・運営にも参画し、よりよい博物館活動になるよう尽力されている。 (4)26 年度から７～８月に、中学生ボランティアによる常設展示の案内解説を実施している。学校及び地域との連携により、若年層の社会参加、館の事業として公共の場における情報発信を継続的に進めることができた。
課 題		(1)出前講座：各地区の生涯学習担当者との連携強化、広報活動展開 (2)館内講座：固定客の維持、参加者の若年層への拡大 (3)ボランティア：活動内容と組織の充実、活動に即した研修等の実施

取組に対する全体的自己評価						
	平成 28 年度	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留
	計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価						
取組に対する全体的評価						
	平成 28 年度	[評価できる]	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
	計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・出前講座、館内講座、ボランティア活動等、限られた人員の中で、内容面だけでなく、経年変化の数値も上昇しており、評価できる。 ・今後の県内や国内のイベントと連携し、出前講座や館内講座の充実、ボランティアのさらなる参画を図り、社会教育の振興を期待する。					

活　動　評　価　表

機能・取組分野	連　携－学術面の連携	
取組方針	・県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。 ・幅広い団体とのネットワークを強化する。	
主な実現方策	・新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。 ・県内外の他館および団体と共催しての巡回展の実施に努める。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［評価指標］地域史研究ネットワークの拡大

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
15 団体	20	22	22

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	**目標**	**実績**
23	（各年目標なし）	**23 団体**

○［評価指標］移動展示・展示協力

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
継続	継続	継続	継続

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	**目標**	**実績**
継続	**継続**	**継続**

平成 28 年度

(1) **地域史研究ネットワーク**
※新潟県地域史研究ネットワークニュースの発行（月１回）
※研究紀要に新潟県関連の文献目録を掲載（年１回）

(2) **移動展**　「復興祈念展」１回（聖籠町）、「お菓子と新潟」２回（新発田市、上越市）

(3) **展示協力**　９件
・宮尾　亨（長岡市国際交流事業＝大英博物館資料貸出/在英日本大使館展示）
・渡部浩二（柏崎市立博物館運営協議会リニューアル検討会）

(4) **研究協力**　６件
・西田泰民（AHRC（英国芸術人文科学研究会議助成金）The emergence and development of pottery in East Asia）
・山本哲也（「博物館研究」編集委員会）

(5) **全国規模研究会への参画**　地方史研究協議会上越妙高大会など

(6) **高等教育機関講師派遣**　27 件（新潟大学・長岡技術科学大学・長岡造形大学・新潟薬科大学ほか）

(7) **文化遺産を活かした地域活性化事業「にいがたの門付芸を活かした地域活性化事業」に基づく連携**
柏崎市立博物館や上越市立総合博物館などの瞽女資料を収蔵する機関と連携し、県内の瞽女資料を調査。

計画期間全般 (H24~H28)	(1)**地域史研究ネットワーク** ※新潟県地域史研究ネットワークニュースの発行（月１回） ※研究紀要に新潟県関連の文献目録を掲載（年１回） (2)**地域史ネットワーク参加団体対象研修**　26 年度から実施し継続(館内向け IPM 研修を公開など) (3)**移動展**　５年間で９回実施。「GHQ の一兵士が見た新潟」４回（白根、村上、長岡、新潟)、「復興祈念展」３回（十日町市、佐渡市、聖籠町)、「お菓子と新潟」２回（新発田市、上越市） (4)**展示協力**　24 年度 14 件、25 年度 12 件、26 年度 4 件、27 年度 7 件、28 年度 9 件。 (5)**研究協力**　24 年度 12 件、25 年度 13 件、26 年度 14 件、27 年度 9 件、28 年度 6 件。 (6)**全国規模研究会への参画**　　被災文化財等救援委員会など、毎年度参画研究会がある。 (7)**高等教育機関講師派遣**　24 年度 13 件、25 年度 13 件、26 年度 15 件、27 年度 21 件、28 年度 27 件（新潟大学・長岡技術科学大学・長岡造形大学ほか）と、増加傾向にある。
分 析	
平成 28 年度	(1)地域史ネットワークは参加団体向けの研修など充実をはかっている。 (2)移動展・展示協力・研究協力・高等教育機関講師派遣など、県内外との協力関係が引き続き維持できている。
計画期間全般 (H24~H28)	(1)地域史ネットワークは増加傾向を示している。 (2)参加団体向けの研修など充実をはかっている。 (3)移動展・展示協力・研究協力・高等教育機関講師派遣など、県内外との協力関係が引き続き維持できている。
課 題	(1)地域史ネットワーク参加団体向け研修を定期化し、また内容の充実をはかっていく。 (2)本県の文化財救援体制整備について、県教育委員会と協議継続。

取組に対する全体的自己評価

平成 28 年度	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価		
取組に対する全体的評価		
	平成 28 年度	評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
	計画期間全般 (H24～H28)	評価できる　やや評価できる　やや評価できない　評価できない　判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言		・海外も含めた研究グループに参画したり、関連学会に役員として積極的に関与したり、あるいは専門知識の提供として県内の高等教育機関に講師を派遣するなど、多様な連携が行われている。また、地域史研究ネットワークでは、主導的立場として活動し、県内の文化活動の促進に大きな役割を果たしているといえよう。館の立地から、活動の多くが中越地方に集中してはいるが、上越、下越地方も視野に入れて連携事業が展開されていることがうかがえる。 ・企画展の県内巡回の例はたいへん意義のある活動である一方、その目的や位置づけが曖昧であるようにも見受けられる。移動展では展示規模の縮小が避けられない。制約が多い中での開催ではあろうが、学術連携事業としての質の担保にできるだけ努めていただきたい。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	連携 ／地域づくりに向けた連携	経営企画課
取組方針	・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。 ・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。	
主な実現方策	・各種団体との事業共催等による連携を模索する。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［評価指標］共催事業等による連携団体数

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
11	15	12	16

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	**目標**	**実績**
20	**15**	**30**

平成 28 年度

(1) **新潟県立歴史博物館友の会**

・国際博物館の日記念事業「除籍本・研究員の私蔵本フェア」（5 月）
・友の会主催展覧会
　「田中長嶺展～シイタケと木炭で日本を救った男」の開催（6～7 月）
　「第 13 回マイ・コレクション・ワールド」の開催（12～１月）
・講演会「雅楽雑感」及び「会員の集い 2016」実施（11 月）
・研修旅行
　「前嶋研究員とゆく特別展「真田丸」見学ツアー」（5 月）
　「沖縄の旧石器文化と博物館を訪ねる旅」（１月）
・里山きのこ観察会（ながおか田中長嶺事績顕彰会との共催・９月）

(2) **平成 28 年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業「にいがたお菓子プロジェクト」に基づく連携**

・米菓会社と連携した菓子の無料配布（7～9 月）
・正徳館高校やバタバタ茶の会等と連携した呈茶席の開催（7～9 月・計 8 回）

(3) **平成 28 年度文化庁文化遺産を活かした地域活性化事業「にいがたの門付芸を活かした地域活性化事業」に基づく連携**

・瞽女唄ネットワーク、ＮＰＯ法人高田瞽女の文化を保存・発信する会、ＮＰＯ法人佐渡芸能伝承機構と連携し、県内５会場で門付芸に関する講演会及び上演会を開催（7～2 月）

(4) **県内各種イベントでの体験ワークショップ**

・関原楽市・縄文まつり（11 月）でのまが玉作り体験（関原地区商工会主催）
・長岡まつり（８月）、米百俵まつり（10 月）での江戸時代の遊び及び甲冑体験

(5) **その他の関係団体**

・火焔街道博学連携プロジェクト　　・関原サイノカミ有志の会
・表千家われもこう（企画展での呈茶席開催）
・「福島しあわせ運べるように合唱団」招へい交流事業（長岡交響楽団）

(6) **国際博物館の日記念事業の実施**

　毎年 5 月 18 日は「国際博物館の日」と定められており、日本博物館協会が全国の博物館に記念事業推進を呼びかけており、当館も種々実施している。
・観覧料無料日の設定（5 月 15 日＝直近の日曜日）

		・記念講座の開催 ・抽選による招待券プレゼント ・友の会との連携による事業（(1)に記載） (7)**リピーター割引の実施** ・馬高縄文館、近代美術館、雪国植物園、越後丘陵公園など近隣施設や万代島美術館、自然科学館などの県内美術館博物館の半券を提示することで当館の企画展観覧料を２割引とし、連携を進めている。
	計画期間全般 (H24~H28)	(1)**新潟県立歴史博物館友の会** ・国際博物館の日記念事業「博物館友の会カフェ」「除籍本・研究員の私蔵本フェア」(5 月) ・友の会主催展覧会「マイ・コレクション・ワールド」毎年度開催 ・講演会及び「会員の集い」毎年度実施 ・研修旅行　年 2～3 回、県内外実施。 ・きのこ観察会（ながおか田中長嶺事績顕彰会との共催） ・映画上映会、コンサート等随時実施 (2)**県内各種イベントでの体験ワークショップ** ・関原楽市・縄文まつり（11 月）でのまが玉作り体験（関原地区商工会主催)、長岡まつり（８月)、米百俵まつり（10 月）での江戸時代の遊び及び甲冑体験は、毎年実施している。 (3)**その他の関係団体** ・火焔街道博学連携プロジェクト　　・関原サイノカミ有志の会 ・裏千家淡交会、表千家われもこう（企画展での呈茶席開催） ・日本アニメ・マンガ専門学校（ＪＡＭ） (4)**国際博物館の日記念事業の実施** 毎年 5 月 18 日は「国際博物館の日」と定められており、日本博物館協会が全国の博物館に記念事業推進を呼びかけており、当館も種々実施している。 ・観覧料無料日の設定（直近の日曜日などに設定し、利用促進を図っている） ・記念講座の開催 ・抽選による招待券プレゼント ・友の会との連携による事業（(1)に記載） (5)**リピーター割引の実施** ・馬高縄文館、近代美術館、雪国植物園、越後丘陵公園など近隣施設や万代島美術館、自然科学館などの県内美術館博物館の半券を提示することで当館の企画展観覧料を２割引とし、連携を進めている。
分 析		
	平成 28 年度	(1)歴史博物館と共催文書を交わした９件を含め、実施した事業数をカウント。 (2)文化庁の助成金を２件獲得し、各種団体との連携を推進。地域づくりに向けた各種事業を実践できた。
	計画期間全般 (H24~H28)	(1) 歴史博物館と共催文書を交わした　10 件を含め、共催事業数をカウント。 (2) 友の会の活動としては、27 年度から「除籍本・研究員の私蔵本フェア」などの新規事業を開催したほか、27 年度に常設展示室ロビーの空間を活用してコンサートを開催。また、毎年ではないが、映画上映会も随時実施している。 (3) 27 年度の鉄道模型走行実演会では、2,012 名が参加し賑わいを見せた。旧長岡駅舎の模型を設置するなど、歴史に触れながら、大人から子どもまでが楽しめる企画内容であった。

課 題	(1)新規団体の開拓…これまでの協力団体からの拡大 (2)地域づくりに向けた連携強化･･･地域の文化団体と連携を図りながら、歴史を通じた地域づくりを支援 (3)連携団体との広報協力体制の整備･･･友の会会員による地域別の広報活動協力

取組に対する全体的自己評価

平成 28 年度	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価

取組に対する全体的評価

平成 28 年度	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留

評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・連携団体数は、評価期間中を通じて着実に増加し、特に平成 28 年度は目標の倍の実績であり、評価できる。 ・平成 28 年度に実施した「にいがたお菓子プロジェクト」は、県民に身近な企業との連携で、地域特産のお米と米菓をわかり易く紹介しており、米菓王国新潟ならではの事業と評価できる。 ・近代美術館などとの連携が進んでいるが、更に多様な地域文化との連携を進め、地域の魅力アップと来館者数の増加に努めていただきたい。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	情報発信／情報発信	経営企画課
取組方針	・当館の活動について、県民認知度を高める。 ・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。	
主な実現方策	・リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。 ・IT やマスコミを活用した情報発信の充実を図る。 ・県外客誘致のための広報に努める。 ・観光事業団体との連携を強化し誘客に努める。	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［評価指標］新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
206/60/146	225/81/137	208/107/123	220/134/172

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	目標	実績
242/122/192	216/65/156	213/134/170

○［評価指標］館ホームページへのアクセス件数

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
64, 971	75, 112	86, 658	104, 968

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	目標	実績
106, 335	90, 000	129, 764

○［評価指標］観光団体による来客者数（クーポン利用団体のみ）

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
757 人（23 件）	201 人（11 件）	269 人（13 件）	606 人（23 件）

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	目標	実績
304 人（10 件）	400	175 人（7 件）

平成 28 年度

(1) **報道掲載**

・新聞・雑誌・テレビ等は、ほぼ目標値に到達できた。

・雑誌は、県内各地域のタウン誌や広告媒体（フリーペーパー）の他、県外の雑誌にも掲載され、目標値を大幅に上回っている。

(2) **館ホームページ**

・公式フェイスブック、公式ツイッターを活用し、頻繁に情報発信した。

・昨年度発生したハッキング事案を受け、今年度も引き続き情報危機管理体制の強化に努めた。

(3) **観光団体と来客**

・県内主要温泉施設、道の駅、老人クラブ訪問等、さらに強化。

計画期間全般 (H24~H28)	(1)**報道掲載** ・新聞・雑誌・テレビ等は、ほぼ目標値を達成できた。 ・雑誌は、県内各地域のタウン誌や広告媒体（フリーペーパー）の他、県外の雑誌にも掲載され、目標値を大幅に上回っている。 (2)**館ホームページ** ・アクセス数は向上を継続している。 ・平成 26 年度に公式フェイスブック、平成 27 年度に公式ツイッターを開設した。平成 27 年度に館ホームページのトップ画面を一部変更した。 ・平成 27 年 11 月の館ホームページ・ハッキング事案を受け、情報危機管理体制の見直し・強化に努めた。 (3)**観光団体と来客** ・公民館、県内主要温泉施設、道の駅、老人クラブ等、訪問先が拡大した。
分 析	
平成 28 年度	(1)イベントごとに情報発信しているため、イベントを増やすことで新聞等に掲載される機会が増える。 (2)無料で情報提供できる Web サイトからの館ホームページへの誘導が、館ホームページアクセス数増加につながっていると考えられる。 (3)観光団体客は誘致できていない結果と見られる。
計画期間全般 (H24~H28)	(1)プレゼントパブリシティ（企画展招待券を活用した『読者プレゼント』など）を推進した結果、県内外の雑誌等が増加した。 (2)公式フェイスブック、公式ツイッターや各種 Web サイトからの館ホームページへの誘導が、館ホームページアクセス数増加に結びついている。 (3)県内外から団体客が来館した 26 年度の「親鸞となむの大地」展以外は、団体客をそれほど迎え入れることができず、その後は例年並みに戻った。
課 題	(1)企画展の内容に当てはまる雑誌等に積極的に情報提供する。 (2)館ホームページのアクセス数増加にともない、よりセキュリティを強化していく。 (3)博物館を含めた周辺地域での観光の提案

取組に対する全体的自己評価

平成 28 年度	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留

Ⅱ　評価委員会による検証・評価

取組に対する全体的評価

平成 28 年度	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H24～H28)	評価できる	[やや評価できる]	やや評価できない	評価できない	判断保留

評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	・H28 年度のイベントについては、マスメディアにも度々取り上げられた。歴史博物館の活動の県民認知度は比較的高いと思われる。また、学芸員自らマスメディアに露出する等、館の知名度をあげる姿勢もうかがわれた。 ・公式フェイスブック、ツイッターの開設によりホームページへのアクセス件数が増加し、それに伴い情報危機管理体制が重要となってきた。さらなる強化に努めてほしい。ホームページの内容は充実していると思う。今後は海外からの来館を考えると、多言語の表記だけでなく、簡単に館の魅力を多言語で発信できることも必要である。 ・観光団体の誘致は、地域を周遊する中に組み込む誘致と、企画展に誘致する場合とがあり、それを適宜峻別しながら推進してほしい。 ・イベントだけでなく、常設展示の魅力についても発信できると良い。歴史博物館の楽しさに加え、意義、必要性を伝えることも大事なことである。まず県民が身近に感じることであり、それが県内の来館者の増大に繋がると考える。さらなる情報発信に努めてほしい。

活　動　評　価　表

機能・取組分野	管理運営	経営企画課
取組方針	・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 ・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。	
主な実現方策	・自己評価・外部評価の実施 ・評価結果の的確な反映によるＰＤＣＡサイクルの確立	

Ⅰ　博物館による自己点検と評価

取組実績

○［全体収支比率］

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
6%	5%	5%	11%

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	**目標**	**実績**
4%	**8%**	**5%**

※全体収支比率･･･観覧料、使用料を含む全体の収入金額を人件費及び再配当・歳出予算の決算額で除して得た数値をパーセント表示した比率

○［評価指標の達成率］

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実績	実績	実績	実績
―	65%	50%	68%

平成 27 年度	平成 28 年度	
実績	**目標**	**実績**
60%	**100%**	**67%**

平成 28 年度

(1) 博物館運営方針（H24～H28）、及び年度初めに設定した「当面の課題」６項目に沿って活動全般を進めた。

(2) 現運営方針に基づくＰＤＣＡサイクルを継続した。
- 活動評価表の作成、及び経営会議での議論等による自己評価
- 外部評価委員による検証と評価
- これらを踏まえた改善と進捗管理

(3) 月各１回の課内会議、経営会議、全体会議を連動させて進捗管理に努めた。

(4) 施設管理について、不具合が発生した設備・機器等の更新・補修を実施した。

(5) 来館者の安全・安心確保、要望聴取に関しては、従前の日常的対応（業務日報・アンケート・案内説明員研修等）を堅持し、防災訓練（年３回）等による深化を図った。

	計画期間全般 (H24~H28)	(1)博物館運営方針（H24～H28)、及び年度初めに設定した「当面の課題」 ６項目に沿って活動全般を進めた。 (2)現運営方針に基づくＰＤＣＡサイクルを継続した。 ・活動評価表の作成、及び経営会議での議論等による自己評価 ・外部評価委員による検証と評価 ・これらを踏まえた改善と進捗管理 (3)月各１回の課内会議、経営会議、全体会議を連動させて進捗管理に努めた。 (4)施設管理について、不具合が発生した設備・機器等の更新・補修を実施したほか、新聞投書を通じた意見提案や館ホームページ・ハッキング事案に対しても適切な対応に努めた。各日の管理責任者を「管理主任者」として明示し、管理体制を徹底した。 (5)来館者の安全・安心確保、要望聴取に関しては、従前の日常的対応（業務日報・アンケート・案内説明員研修等）を堅持し、防災訓練（年２～３回）等による深化を図った。
分 析		
	平成28年度	(1)目標の設定・共有を図りながら進める、これまでの館運営の基本的な仕組みを継続し、定着・深化を図っている。 (2)上位指標の中では、夏及び秋の企画展の観覧者数減を主要因として、観覧者数が大きく落ち込んだ。
	計画期間全般 (H24~H28)	(1)目標の設定・共有を図りながら進める、これまでの館運営の基本的な仕組みを継続し、定着・深化を図っている。 (2)上位指標の中では、夏及び秋の企画展の観覧者数減を主要因として、観覧者数が大きく落ち込んだ。
分 析		(1)目標の設定・共有を図りながら進める、これまでの館運営の基本的な仕組みを継続し、定着・深化を図っている。 (2)上位指標の中では、夏及び秋の企画展の観覧者数減を主要因として、観覧者数が大きく落ち込んだ。
課 題		(1) ＰＤＣＡサイクルを定着させ有効に機能させる。 (2) 入館者数を増やすことによる観覧料収入の増加、経費の節減 (3) 計画的な設備・機器等の更新・補修の実施

新潟県立歴史博物館評価委員会報告書
発　行　日　平成29年8月25日
編集・発行　新潟県立歴史博物館評価委員会